

# 3月・4月の管理ポイント



株式会社 トモグリーンケミカル

今年は、暖冬の影響で1月、2月でも芝生が動いておりグリーンに液肥を散布していたキーパーさんも多かったと思います。

3月は本格的に芝生が目覚める時期です。  
しっかりした根をつくっていきましょう。

ホームページアドレス  
<http://www.tomo-green.com/>

第86号

## 春先の灌漑管理が重要です... レボ (REVO)

春の水管理が芝生の根をしっかり伸ばすポイントです!!

グリーンの表層を少し乾燥気味にして、根に軽いストレスを与え下層にある水分まで伸ばさせます。

レボは土壌粒子の表面を極端に薄い膜で覆いますので、土壌中の空隙率がアップし、表層の過湿を防ぎます。定期処理することによって、根が下に伸びやすい環境を整えてやり、夏が来るまでにしっかりと根を伸ばしておきましょう。

使用量：レボ 2ml/m<sup>2</sup> 散布水量：200ml~1L/m<sup>2</sup> 散布回数：1ヶ月に1回

## サッチ層の除去には... サッチ・リムーバー

3月、4月の更新作業時に処理することにより、グリーンのサッチ層を軽減しましょう。

他の微生物由来のサッチ分解剤とは異なり、酵素を主体としているので土壌中でも安定して働きます。

従って農薬類の混用や近接散布が可能。

使用量：1~2g/m<sup>2</sup> 0.5L/m<sup>2</sup>散布 使用回数：月1~2回

## みみんず水和剤

ミミズの糞塚防止には...

3月、4月は、ミミズが活発に動き回り糞塚が多くなる時期です。

使用する時は、降雨後や朝か夕方の散布がお奨めです。

ゴルフ場の皆さんには、「いろいろ使ってみたが、やっぱりみみんずだ」とご好評いただいております。

使用量：1000倍 2L/m<sup>2</sup>

## グリーンメカ・メカプラス

芝生の貯蔵養分を補うために...

3月、4月は、休眠明けの植物が生長する時期です。

特に3月上旬の萌芽期は、一斉に芽出しさせることが重要です(生育のバラツキをなくす)。

休眠前に貯蔵しただけでは不足しがちな糖類、ミネラルをグリーンメカ、メカプラスを処理することによって、補っていきましょう。

使用量：5~10ml/m<sup>2</sup> 1L/m<sup>2</sup>以上

## カラーマーカ<sup>®</sup>・L

除草剤散布時の識別剤として...

食用色素を成分としてありますので、安心してお使いいただけます。

(従来の投げ込む粉体を液状にしました)

除草剤散布時の着色識別剤(カラーマーカ)として利用していただけます。

使用量：3000~5000倍 (倍率は芝生や主剤の色合いにより自由に加減下さい)

# 土壌中の微生物が増える速さは？

土壌中の微生物の増殖スピードは速いといわれていますが、いったいどれくらい速いのかを知っている人は少ないと思います。

よく生物には「大きさと代謝活性の反比例の法則」という言葉があるそうですが、人間に比べると体の小さい微生物の代謝は圧倒的に高くなります。

この代謝の速さが増殖スピードにつながります。

表.1 生物の呼吸活性( $\mu\text{lO}_2/\text{mg}$ 乾物量/時間)

人間	網膜	31
	皮膚	0.8
	心臓	5
	肝臓	12
微生物	ラン藻	1~10
	カビ	10~50
	酵母	50~100
	大腸菌	100~300
	酢酸菌	約1000
	アゾトバクター	約3000

活発な人間の心臓に比べてもカビは2~10倍、大腸菌は、20~60倍、**アゾトバクターは、約600倍も呼吸活性が高く、**たくさんのエネルギーを製造する。従って増殖スピードも速い。

表.1は動物および微生物の細胞について重量を同じにしたとき(水分を除いた乾物1ミリグラム当たり)、呼吸によって1時間にどれくらい酸素を吸収したかを示している。

※アゾトバクター：土壌中に存在する好気性の窒素固定菌(窒素を作り出す菌)

表.2 微生物の増殖速度(細胞が2倍になるまでの時間)

ブドウ状球菌(細菌)	26分
大腸菌(細菌)	17分
バチルス・メガテリウム菌(細菌)	31分
サッカロミセス・セレビシエ(酵母)	2時間
ゾウリムシ	10.5時間
ラッパムシ	26.4時間

土壌中では水分や栄養の条件が必ずしもよくないので、実際はこれほどのスピードで増殖しないが、**根圏では平均10時間ぐらい**といわれているので、**10日間**で24回の分裂を繰り返すことになり、**1つの細菌細胞が約1678万个**に増殖する計算になる。

※表.2は最も良い条件の最高速度を示している